
Eyes of the truth

向日葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Eyes of the truth

【Nコード】

N6293P

【作者名】

向日葵

【あらすじ】

真実のトビラ。

このトビラを開くものは、真実の心と目を持ったものだけだ。

真実とはなにか、偽装とはなにか、疑惑とはなにか・・・

そして信じるということとはなにか・・・

3人の主人公の、それぞれの闘いが始まった

壺

渋谷。スクランブル交差点中心部。

そこに、普通の人間には見えない透明なトビラがある。

何千人もという人間が、何も無いかのように交差点を渡ってゆく。

私は今、透明なトビラの前に立っている。

平然とした顔で私の横を通り過ぎる人々は、私の目の前にあるトビラの存在など気づいていない。

そして、私の存在を気にしていない。私もまた、通り過ぎる人々の存在を気にしていなかった。

私はトビラの取っ手に手をかける。

今の私の心は、まさに好奇心で埋めつくされていた。

1週間前・・・

私は映画を見に、姉と共に渋谷に来ていた。

そこで1つの街頭アンケートに答えた。

「少しお時間いただけませんか？簡単なものなのでお願いします」
声をかけてきたのは、大学生くらいに見える若者だった。やたらと背が高いのが特徴的だ。

このようなことは過去に何度もあり、そのすべてがキャッチセールス類たぐいのものだった。

今回もそういうものだ判断し、私はその場を急ごうとしたのだけ
れど・・・。

「本当に10分程度で済みます。名前や住所などの個人情報は一切

記入欄がありませんので・・・どうか・・・」

この言葉を聞いた瞬間、なぜか私の心は動かされていた。
まるで・・・なにかの催眠にかけられたかのように・・・。

私はいつの間にかアンケート用紙を手を持っていた。

内容は心理テストのようなものが3問ほどあるだけで、個人情報を
書くところは彼のいつていたとおり一切無かった。

ただ、年齢とニックネームをかくだけであつた。

ニックネームは適当に書き、ほんの30秒ほどで私はアンケートを
書き終えた。

「ありがとうございます！」

彼は一仕事終わったサラリーマンのようにホッとした顔をした。

私が一礼すると、彼はさっさとその場を立ち去っていった。

壺（後書き）

初めてなのであやふやですが、

読んでいただけるとうれしいです。
応援宜しくお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6293p/>

Eyes of the truth

2011年1月3日22時16分発行